

# 日点委通信

No.34

2018年11月1日発行

新会長に渡辺昭一氏を選出

2018年6月、研究協議会並びに第54回総会において、渡辺昭一氏が新会長に選出された。鳥居篤治郎、肥後基一、本間一夫、阿佐博、木塚泰弘の各氏のあとを受けて、第6代目の会長となる。

『日本点字表記法 2018年版』発行へ

2017年11月1日、編集委員会で作成した「日本点字表記法」改訂版（案）を、「主な変更点」と合わせてホームページで公表し、広く意見を募集した。2018年2月末日の締め切りまでに、51名（団体）から計342件のご意見をいただいた。

編集委員会では、寄せられた意見を討議し、2018年6月、研究協議会並びに第54回総会に最終案を提案した。研究協議会で同案の審議を行った後、総会において『日本点字表記法 2018年版』の発行が承認された。その後の編集委員会において、総会での意見等を踏まえた原稿の修正および第1章、第2編等の作成を行い、本書の内容は概ね確定した。

以下が、「2001年版」との相違の一例である。

全体的なこと：各項目に見出しを付けるなど、内容を分かりやすくした。

第1章 点字の記号：特殊音の分類を若干変更した。

第2章 語の書き表し方：「外来語の表記」の表記などについて根拠を示した。

第3章 語の区切り目の分かち書きと自立語や固有名詞内部の切れ続き：「自立可能な意味の成分」を「独立性の強い意味のまとまり」という表現に変更し、「副次的な意味の成分」を「独立性の弱い要素」という表現に変更した。

第4章 文の構成と表記符号の用法：読点・中点の使用を標準の扱いとした。

第5章 書き方の形式と点訳のための配慮：点訳のための配慮を拡充した。

第6章 古文の書き表し方：用例の並びを変更し、品詞別にして例を増やした。

第7章 漢文の書き表し方：仮名文字体系の点字を用いて漢文を書き表す場合、書き下し文に直して書き表すことが原則であることを強調した。

## 点字数理記号解説 暫定改訂版から、2019年版へ

2020年度から使用される点字教科書の編纂に間に合うように、数学・理科・情報処理をまとめた『数学・情報処理用点字表記解説 2019年版』及び『理科点字表記解説 2019年版』を発行する。

## 木塚泰弘前会長、阿佐博元会長ご逝去

2018年に日点委は二人の先達を失った。

2月9日、木塚泰弘前会長(2002年度～2017年度)が逝去された。82歳であった。前会長は日点委の創立に尽力し、これまでのすべての「日本点字表記法」編集の中心人物であり、発足以来のすべての総会に出席するなど、日点委の歴史と共に歩んできた。

4月1日には、阿佐博元会長が95歳の生涯を終えた。阿佐元会長も、木塚前会長同様、日点委に創立時から関わり、1990年度から2001年度まで会長を務めた。生前の石川倉次氏に会ったことがあるという、日本の点字の生き字引のような方であった。

お二人とも新しい「表記法」の完成を願っておられた。

## 日点委墨字発行物の発売元変更などについて

長らく日点委発行の墨字書籍『日本点字表記法 2001年版』『レイ・ブライユの生涯』『資料に見る点字表記法の変遷』の発売元であった株式会社大活字が業務を見直すことになり、日点委との出版契約を3月末で終了した。以降、この3冊の販売については、日本点字図書館わくわく用具ショップが主な取扱となる。なお、『日本点字表記法 2001年版』は、Kindle版がAmazonで購入できる。価格960円

## 2018年度研究協議会並びに第54回総会報告

2018年6月2日(土)～3日(日)、横浜あゆみ荘で、標記の協議会・総会を開催した。

開会に先だち、木塚泰弘前会長、阿佐博元会長に対し、参加者全員で黙祷を捧げた。

盲教育界および盲人社会福祉界より選出された第13期委員は、以下16名の各氏。

青松利明(筑波大学附属視覚特別支援学校)、岩屋芳夫(横浜市立盲特別支援学校)、河出充展(岐阜県立岐阜盲学校)、中村恒子(山形県立山形盲学校)、馬場洋子(神戸市立盲学校)、平松智子(和歌山県立和歌山盲学校)、溝上弥生(愛知県立名古屋盲学校)、安川和子(香川県立盲学校)、大澤剛(三重県視覚障害者支援センター)、加藤三保子(福島視覚情報サポートセンターにじ)、佐賀善司(岩手県立視聴覚障がい者情報センター)、白井康晴(東京点字出版社)、福井哲也(日本ライトハウス点字情報技術センター)、水谷吉文(天理教点字文庫)、山本令子(東京ヘレン・ケラー協会点字出版社)、渡辺昭一(京都ライトハウス情報製作センター)。

両界代表委員協議会において、学識経験委員として加藤俊和、金子昭、竹下義樹（日本盲人会連合）、田中徹二、藤野克己、宮村健二、和内正也（全国盲学校長会）、和田勉（以上再任）、長岡英司（新任）の各氏が選出された。

委員22名、事務局員4名、会友3名、オブザーバー等33名、計62名の出席があった。1名から委任状が提出された。

## 総会

### （1）役員等の改選について

①会長に渡辺昭一（新任）、副会長に金子昭（再任）・藤野克己（新任）、事務局長に和田勉（再任）が選出された。

②会計監査委員に道村静江（再任、会友）、首藤浩（新任、会友）が選出された。

③事務局員として、小川眞美子（新任）、奥野真里、小野明男、畑中真弓、畑中優二、花田和枝（以上再任）が承認された。

### （2）『日本点字表記法』改訂版編集委員会より、下記の報告があった。

「表記法」（案）に多くの意見が寄せられた。意見を寄せてくださった多くの団体・個人にお礼申し上げたい。前回総会以後、編集委員会は第7回、および第8回を、作業部会は、第8回～第10回を開催した。

### （3）数学・理科・情報処理記号専門委員会より、下記の報告があった。

全体会を2回開催した。数学・情報処理と理科を分けて部会を設けて審議し、改訂の概要をまとめた。情報処理を数学と一緒にして表記法から分離するという提案もある。

（4）『日本点字表記法』改訂版を発行することが承認された。書名は『日本点字表記法 2018年版』とする。墨字・点字同時発行を目指す。墨字版は電子書籍でも出す予定。

## 研究協議

### 1. 『日本点字表記法』改訂版(案)について

各章について、次のような討議が行われた。

#### 第2章

2節1. 「外来語や外国語の地名や人名の仮名表記」は、内閣告示の「外来語の表記」に基づいている。「外大大SHIFT□キー」の表記について。「ユーディーキャスト」は「外大大UDC外 a s t」ではなく、「外大U大D大C a s t」と書くべきだ。3節9. 「文字や略称を書き表すアルファベット」(1)【注意2】の「最後の一字だけが小文字」でよいのか。

### 第3章

「独立性の強い」「独立性の弱い」はどのように判断するのか。それは相対的なもので、それぞれの判断基準でよいのではないか。外来語の切れ続きは、項目を設けるまでにはまともらなかったもので、2節3.「複合名詞の構成要素の意味のまとまりと切れ続き」(1)(2)の用例を見ていただきたい。拍数で判断し、語種にこだわらない書き方はできないか。拍数は重要な要素だが、それだけで切れ続きを判断することはできない。最近では機械的に切る方向に動いているが、「表記法」に書かれていることを守っていききたい。

### 第4章

説明カッコは続けて、挿入カッコは切ることになっているが、どちらかはっきりしないものもある。スラッシュが3種類あるが、整理できないか。あくまでスラッシュは③④の点で、アルファベットモードにするときには⑤⑥の点を前置するという考えだ。外国語引用符の後ろを、マスあけせずにカッコを書くことの是非。

### 第5章

見出しに用いるリ下がりロ下がりカッコがなくなったが、第4段階の見出しについては、現行「表記法」に準じて処理するとよい。

### 第6章

2節2項2.【注意3】「～敬意などを表す補助用言の前で区切って書き表してもよい」は、馴染まない。

### 第7章

特になし

## 2. 数学等の点字表記に関する改訂案概要について

数学・理科・情報処理記号専門委員会より、「数学等の点字表記に関する改訂概要について」の資料に基づき説明があった。カッコから始まる数式に数式指示符を前置すること、暫定改訂版「4.2 数式内のマスあけについて」《注意》但し書きの削除範囲について、分数囲み記号（ $\frac{\cdot}{\cdot}$   $\frac{\cdot}{\cdot}$ ）を小学部から導入することなどについて討議された。表記法から情報処理解説を分離する方針を含む概要案がおおむね承認された。

### 日本点字委員会事務局

〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1丁目23番4号 日本点字図書館内

電話 03(3209)0671 FAX 03(3209)0672 振替口座 00100-1-42820

ホームページ <http://www.braille.jp/>